



南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成26年4月30日

校長 福田 俊彦

「安全」・・・行動に価値付けを

校長 福田 俊彦

街路樹として植えられている「はなみずき」がきれいに咲き誇っています。この4月、子供たちには、新たな学年への期待があるでしょう。戸惑いもあるでしょう。学年の仲間と、学級の仲間と築き上げていることもあるでしょう。気持ちの行き違いもあるかもしれません。その一つ一つを、子供の成長にかかわらせていくことが大切であると考えています。みんなの子供をみんなで育てる南町小学校です。これからも子供の思いを受けとめつつ、保護者、地域の皆様のご理解とご協力のもと、教育活動を展開してまいります。

先日、小学校の子供にかかわる交通事故の記事を読みました。学校として、家庭として、地域の方々のご協力もいただきながら、交通安全の指導を継続しなければならない内容でした。それは、ここ5年間、春の交通安全運動が行われている4月に比べ、5月、6月の交通事故の件数が増えているということです。原因についていくつか考えることができます。自分は大丈夫という安心感、慣れからくる油断、暖かさにとまなう行動範囲の広がり、薄暮の状況など。

昨年度、道路の歩行・横断、自転車の乗り方など、交通事故から身を守る行動について繰り返し指導をしてきました。その指導の効果が、子供の姿に見ることができます。登下校時の子供の様子です。「広がって道を歩くことなく」「道に飛び出すことなく」「道を渡る時に左右の確認する」などです。交通安全について理解していることを自らの行動に移せていることです。これらの行動を、自分の命は自分で守る力として高め、定着させていかなければなりません。

そのためにできることがあります。交通安全に関する子供たちの行動を大切に捉えることです。子供の行動に価値を付けていくことです。それは大人がすべきことでしょうか。今、身を守るためにできていることは何か、努力していることは何かについて、自分を見つめられるようにします。そのよき行動を、認め、励ましていくことです。このような場面を一つでも多く創っていくことが、安全教育の効果をさらに上げることにつながります。

子供が自分の命、安全を守る力を本物の力として身に付けさせていくことは、交通事故から身を守るだけでなく、地震が起こった時の行動にも、不審者に遭遇した時の行動にも、そして、危険を避ける行動に力として発揮されます。子供たちに、自らの行動を振り返らせ、できていること、もっと気を付けなければならないことを明確にもたせていきましょう。

みんなの子供が地域で活動する場面、みんなの子供が登下校する時間帯には、子供たちの見守りや声かけなどを今後ともお願いいたします。